



愛知県豊根村のコメツキムシ若干種の記録

大平仁夫

富山村は豊根村と合併し、現在は豊根村富山となっているが、ここは愛知県の最北端に位置する山村で、かねてから昆虫類の分布では注目されていた地域である。旧豊根村と富山村は昆虫類の分布相からは若干の相違が見られるので、ここでは旧富山村と旧豊根村と区別して記録することにした。

本文を草するにあたり、この調査に同行して支援をいただいた山崎隆弘氏に心から御礼を申しあげる。また、この調査は豊田市史資料調査で得られた資料である。

「富山村」(18-V-2008)

1. *Denticollis nipponensis* Ôhira, 1973

ベニコメツキ (1♂)

県内では主として三河地方の山林地帯に分布している。幼虫は朽木の樹皮下にいて、捕食性である。富山村からはこれが最初の記録と思われる。

2. *Actenicerus kurofunei* (Miwa, 1934)

ミヤマフトヒラタコメツキ (5♂♂) (図1, 1)

長野県から山岳地帯を南下している代表的な種で、愛知県内の南限は豊根村(兎鹿島)である。富山村からは松野更一氏が採集の漆鳥と日本ヶ塚山からの個体を大平(1984a)に記録したのが最初である。ここでは主として花上に飛来していた。

3. *Ectinus insignitus* (Lewis, 1894)

ヨツキボシコメツキ (1♂2♀♀)

雑木林性で、三河地方の山林帯に広く分布している。富山村からは大平(1984b)に日本ヶ塚山から松野更一氏が採集の個体を記録している。

4. *Melanotus koikei* Kishii et Ôhira, 1956

ヒラタクシコメツキ (2♂♂)

三河地方の山林帯に広く分布しており、ときに狭い範囲で集団で見出されることがある。富山村からの記録は少なく、筆者が知る範囲では山崎(1975)による日本ヶ塚山からの1個体の記録があるのみと思われる。

5. *Cardiophorus niponicus* Lewis, 1894

ホソハナコメツキ (3♂♂) (図1, 4)

雑木林性の種である。豊根村からは茶白山や黒川や文地から記録されているが、富山村からの記録はこれが最初ではないかと思われる。

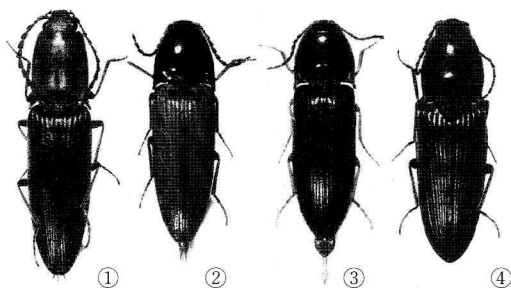


図1. 1. ミヤマフトヒラタコメツキ, ♂ (体長14mm)
2. マサタカアカコメツキ, ♂ (体長10.5mm)
3. アカシクロコメツキ, ♀ (体長9mm)
4. ホソハナコメツキ, ♂ (体長8.5mm)

「豊根村(古真立)」(18-V-2008)

山崎隆弘氏と富山村へ入る途中で、古真立の「みどり湖」で休憩して採集することができ、以下の種を見いだした。

1. *Agrypnus cordicollis* (Candèze, 1865)

ムナビロサビキコリ (1♂)

山林帯に広く分布する種である。豊根村からは茶白山や黒川や分地などから記録されている。幼虫は土壌中に生息するため、牧草地や苗圃地など

からも見出される。

2. *Ampedus japonicus japonicus* Silfverberg, 1977
アアカシクロコメツキ (1♀) (図1, 3)

本州から九州にかけての雑木林に広く分布する種である。体長は7~8mm内外、黒色で両側は平行状、触角は黒色で肢は赤褐色である。豊根村からは大平 (1980) が *A. rufipes* Lewis の学名で三沢と茶臼山から記録している。また、富山村からは山崎 (1975) が日本ヶ塚山、大平 (1984) が大沼と日本ヶ塚山から記録している。しかし、古真立からはこれが最初の記録である。

3. *Ampedus masatakai* Ôhira, 2007

マサタカアカコメツキ (1♂) (図1, 2)

愛知県の岡崎市池金町, 豊川市 (音羽町), 新城市作手玖老勢からの標本に基づいて新種として筆者が記載した体長9~10mm内外で黒色、上翅が赤褐色をした種である。触角は黒色で肢は黒褐色、前胸背板や上翅表面に生じる体毛は黒色である。本種の雄交尾器や触角の基部節は原記載で示しており、分布の概要は大平 (2008) が報告している。古真立では、「みどり湖」畔の樹木の梢の葉先を

スリーピングして見いだした。今後雌個体も含めてより詳しい形態を示して同定の参考にしたと思っている。

引用文献

1. 山崎隆弘 (1975) 日本ヶ塚山のコメツキムシ。三河の昆虫, (9) : 34-35.
2. 大平仁夫 (1978) 北設楽郡富山村採集会採集品の記録。採集ニュース, (3) : 45.
3. ----- (1980) 愛知県豊根村の動物-コメツキムシ科- : 204-207. (豊根村教育委員会)
4. ----- (1984a) 原田猪津夫氏採集のコメツキムシ (II) 佳香蝶, 36 (138) : 17-19.
5. ----- (1984b) 松野更一氏が採集した三河地方のコメツキムシについて。鳳来寺山自然科学博物館館報, (14) : 1-11.
6. ----- (1985) 山崎隆弘氏採集の三河地方のコメツキムシ。三河の昆虫, (32) : 170-178.
7. ----- (2008) 愛知県産コメツキムシ類の分布の概要と新種の基産地となった種について。佳香蝶, 60 (234) : 47-51.

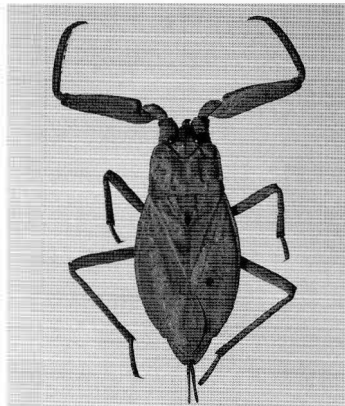
豊田市黒坂町でヒメタイコウチを採集

大平仁夫

豊田市黒坂町 (旧下山村黒板) の山中に、下山パークパークと呼ばれている広大な茶畑と乗馬クラブや散歩道などが開けた場所がある。標高がないので山地性の種は少ないが、春から初夏には里山の雑木林性の種が多く分布している。

筆者はここで体長18mmのヒメタイコウチの雄を採集したので報告する。本種は下山地域からは最初の記録ではないかと思われる。

なお、この調査は豊田市史資料蒐集のため行ったもので、同行して支援をいただいた山崎隆弘氏に心から御礼申しあげる。



標本 : 1♂, 19-VI-2008, 大平採集。
(図示した個体, 体長18mm)。

愛知県豊田市で採集した興味ある甲虫類

山崎 隆弘

愛知県豊田市は2005年4月1日に藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町が合併し、西三河の北西部の多くを占める新しい「豊田市」が誕生した。本市は岐阜県と長野県に隣接し、矢作川流域を中心とした地域である。今回、2008年4月から豊田市教育委員会による新市史編さん事業の一環として昆虫類についても総合的な調査が2008年からスタートした。この調査活動において、筆者が採集した中に興味深い種がいくつか見られたので、今後の調査の参考になればと思い報告する。調査でお世話になった大平仁夫博士、浅岡孝知氏をはじめ、調査会のメンバーの方々に対し心からお礼申し上げる。以下の標本はすべて筆者が保管している。

採集記録

1. フタツメゴミムシ *Lebia bioculata* Morawitz
1ex., 稲武町面ノ木峠, 27-V-2008.

体長9mm前後の樹上性の種である。愛知県では希で豊田市猿投山(岩崎・蟹江1990)の1例があるにすぎない。今回、面ノ木峠付近の歩道脇の中低木からピーティングにより採集した。

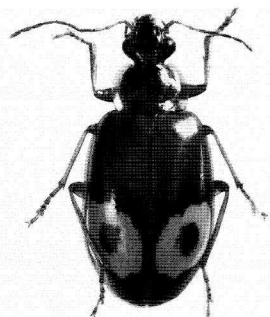


図1. 稲武町面ノ木峠産

2. ツマフタホシテントウ
Hyperaspis asiatica Lewis
1ex., 和合町, 14-IX-2008.

体長3mm前後の小形種である。全国的にも少ないものである。秋季の調査において、茶畑でピー



図2. 和合町産

ティングをしたところ偶然に本種が得られた。愛知県ではこれが最初の記録と思われる。

3. アカホシテントウ *Chilocorus rubidus* Hope
多数, 猿投町広沢川登山道, 24-VI-2008.

体長6-7mm前後の中形種である。タマカイガラムシ類の天敵として知られているが、愛知県では春日井市高蔵寺(穂積1958)、尾張旭市(西山1980)、宝飯郡小坂井町(山崎2007)の記録があるが少ない。しかし、群生するすることがあり、広沢川登山道脇の梅林では多数の幼虫、蛹、成虫を確認することができた。

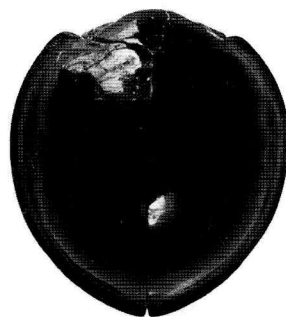


図3. 猿投町広沢川登山道産

4. クロスジチャイロテントウ
Micraspis kiotoensis (Nakane et M.Araki)
1ex., 畝部東町矢作川河川敷, 27-X-2008.

体長3.5-3.7mmで本州・九州に分布する。愛知県では、能見町(田中ほか2000, 2001)、宝飯郡小坂井町(山崎2005)、矢作川河川敷(安城市史編集委員会2006)で記録があるが少ない。本種は晩

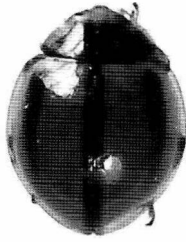


図4. 畷部東町矢作川河川敷

秋になっても活動しているのでこの時期の調査は有効である。おもに河川敷に生息しているため、このような環境下で見出すことができる。

5. フタコブルリハナカミキリ

Stenocorus caerulepennis (Bates)

1ex., 羽布町下山パークパーク, 14-VI-2008.

体長17-25mmでハナカミキリの仲間では大形で、温帯の樹林性の種で花上に来る。愛知県では絶滅危惧種 (NT) とされている。本県では珍しいもので稲武町駒ヶ原 (河路1984) の記録が唯一であったが、最近、面ノ木園地 (2006) から見出されている。今回のはそれよりも南部にあたる低山地から得られた。

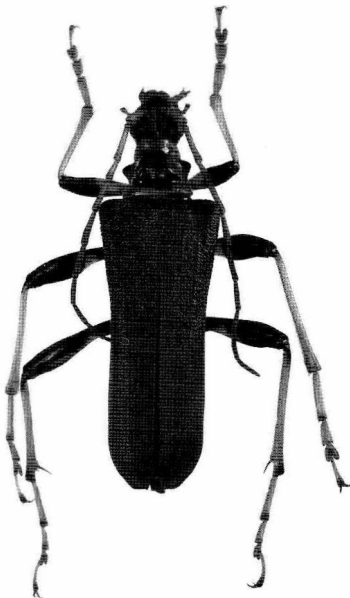


図5. 羽布町下山パークパーク産

6. ヨコヤマトラカミキリ

Epiclytus yokoyamai Kano

1ex., 西広瀬町, 29-IV-2008.

体長7-9.5mmで4~5月に出現し、本州や四国に

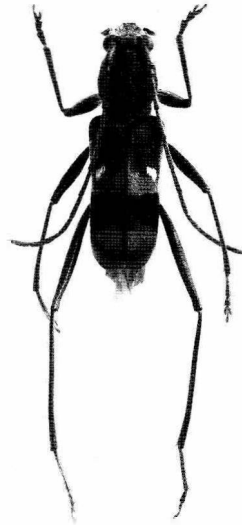


図6. 西広瀬町産

分布する。愛知県では三河本宮山を中心とした地域では比較的良好に見られるが、豊田市からの記録では、山中町 (蟹江2005)、能見山 (湯沢ほか1990) があるにすぎない。

7. キヌツヤミズクサハムシ

Plateumaris sericea (Linnaeus)

1ex., 御内町田之土里, 2-V-2008; 1ex., 羽布町根山, 12-V-2008.

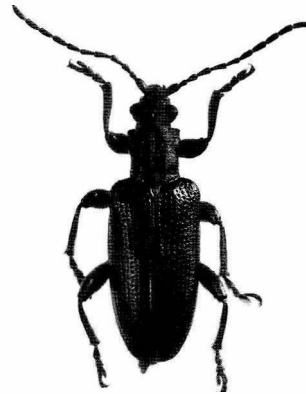


図7. 御内町田之土里産

体長6.5-11mmで湿地のスゲ類などの花に集まる大陸系の種である。4~5月頃山間部の湿地で見られるが、記録としては少ない。豊田市からはすでに田之土里 (高橋1988) で記録がある。本種は湿地という特殊環境下の依存種であることから開発による影響を受けやすく、愛知県の絶滅危惧種 (NT) に指定されている。

8. ルイスクビナガハムシ

Lilioceris lewisi (Jacoby)

1ex., 稲武町面ノ木峠, 29-V-2008.



図8. 稲武町面ノ木峠産

体長6-6.5mmで本州・四国・九州に分布する。愛知県では多くが奥三河山岳部に分布しているが、古くは木曾川堤 (土井1938)、阿寺 (神谷1955) などの低地からの記録がある。近年は採集例も少なくなり、珍しい種のひとつになってきた。

9. ツツジコブハムシ

Chlamisus latiollis (Chûjō)

1ex., 松平町松平郷, 18-X-2008.

体長2.8-3.4mmの小形の種である。本州と九州に分布し、ツツジ類から見出されることが多いとされるが、愛知県での記録は名古屋市名東区猪高緑地 (大塚1999) があるにすぎない。今後各地で見つかる可能性もあるが、豊田市からはこれが最初の記録と思われる。



図9. 松平町松平郷産

10. ハッカハムシ

Chrysolina exanthematica (Wiedemann)

1ex., 松平町松平郷, 18-X-2008.

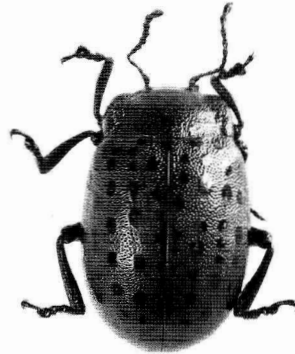


図10. 松平町松平郷産

体長7.5-9.0mmで分布域の広い種である。愛知県では西三河から尾張地方にかけてスポイト的に見出されている。今回、秋季に得ることができたので報告しておきたい。本種はハッカの栽培の減少に伴ない徐々に衰退の方向にある。同様の傾向にあるのがアサヤクワなどの依存種もそうである。本種はまだ東三河からは記録がない。

11. スズキミドリトビハムシ

Crepidodera sahalinensis Konstantinov

7ex., 畝部東町矢作川河川敷, 27-X-2008.

体長2.5-3.5mmで矢作川や豊川河川敷のヤナギ類に普通で個体数も多いが、過去の記録ではミドリトビハムシ *C. japonica* と混同されて記録されていたものと思われる。愛知県の平地においては多くが本種である。記録としては豊明市新田町 (吉鶴2003) がある程度なので、普通種ではあるがここに記録することにした。

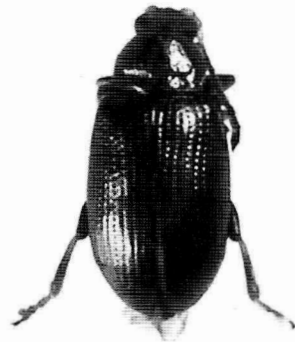


図11. 畝部東町矢作川河川敷産

12. ヒゴトゲハムシ

Dactylispa higoniae (Lewis)

lex., 西広瀬町, 24-VI-2008; lex., 羽布町根山,
16-VIII-2008; lex., 勘八町勘八牧場, 24-IX-2008.

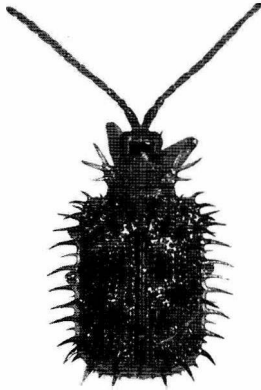


図12. 西広瀬町産

体長3.8-4.5mmで、本州以南に分布する暖地系の種である。ムラサキシキブや、ヤブムラサキから得られるが少ない。今のところ愛知県では豊田市(蟹江2005)の記録があるが、まだ本市以外からは見出されていない珍しい種である。

12. タカハシトゲゾウムシ

Dinorhopala takahashii (Kōno)

lex., 東大林町三河高原牧場, 20-IV-2008.

体長4mm内外の小形であるが、珍奇な形状をした種である。愛知県では新城市の船着山(山崎1978)、作手黒瀬(山崎1990)、本宮山の暗閣溪谷(穂積1985)などからの記録がある。豊田市からは蘭町(山崎1992)の記録があるが、春季にヤマザクラなどから希に採集される程度である。

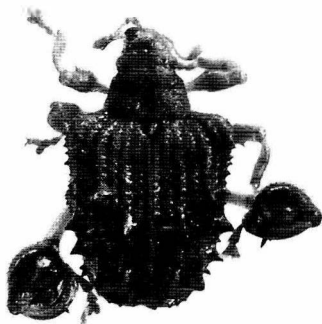


図13. 東大林町三河高原牧場産

引用文献

- 1) 愛知県(1990) 愛知県の昆虫(上) 愛知県農地林務部自然保護課.
- 2) 安城市史編集委員会(2005) 新編安城市史Ⅱ資料編別冊 安城市動物目録. (安城市).
- 3) 土井久作(1938) 名古屋付近に産する二, 三の注目すべき昆虫. 昆虫研究, 2(1): 12-14.
- 4) 長谷川道明・吉富博之(1998) 愛知県のネクイハムシ類. 豊橋市自然史博研報, (8): 41-46.
- 5) 穂積俊文(1958) 東海甲虫誌(5): 佳香蝶, 9(33): 3-8.
- 6) 穂積俊文(1985) 1985年初夏, 三河本宮山の甲虫. 三河の昆虫, (32): 182-184.
- 7) 岩崎博・蟹江昇(1990) 愛知県のオサムシ科. 愛知県の昆虫(上): 309-338.
- 8) 蟹江昇(2005) 豊田市の昆虫類・甲虫目. 豊田市自然環境調査報告書(資料編): 161-236.
- 9) 河路掛吾(1984) 1982年駒ヶ原高原で採集したカミキリ. 三河の昆虫, (31): 155-158.
- 10) 神谷一男(1955) 奥三河の昆虫相. 北設山岳及鳳来寺山県立公園一帯の自然科学: 33-70.
- 11) 西山武(1980) 森林公園の昆虫. 森林公園刊.
- 12) 大塚篤(1999) 名古屋市名東区東部~南部地域の甲虫類(第2報). 佳香蝶, 51(199): 41-44.
- 13) 高橋和宏(1988) ネクイハムシ類1987年の採集記録. Donacist, (2): 22.
- 14) 田中蕃ほか(2000) 矢作川河岸 能見公園~鶴の首橋間の昆虫. 矢作川研究: (4): 19-59.
- 15) 山崎隆弘(1978) 三河地方で採集した珍しい甲虫(その3). 三河の昆虫, (21): 81-83.
- 16) 山崎隆弘(1992) 三河地方で採集した興味ある雑甲虫類. 三河の昆虫, (39): 337-338.
- 17) 山崎隆弘(2001) 旭町の甲虫目・ハムシ科. 旭町の昆虫, (36): 248-255.
- 18) 山崎隆弘(2005) 愛知県小坂井町のテントウムシ類. 虫譜, 44(1): 26-29.
- 19) 吉鶴靖則(2003) 昆虫・コウチュウ類. 豊明市史・資料編・補7・自然: 284-325. 豊明市.

伊藤六仁氏採集の東栄町の異翅目

浅岡孝知

この度、北設楽郡東栄町に在住の伊藤六仁工学博士より、貴重な東栄町各地で採集された昆虫の内、カメムシ類の標本を拝見させていただく機会を得、同定をさせていただいたので報告する。伊藤氏は「花祭り」で全国的に知られている東栄町に永住してから、自宅のある上小田中心に東栄町内各地で採集を重ね試料を蓄積されている。これまで東栄町のカメムシ類の記録は、浅岡・家城(1990)に一部地区の例だけであり、全体をまとめられたことがなかった。東栄町史(2007)の発刊に収録されていればよかっただけに残念である。紙面の都合で、今回は異翅目について報告する。一部未同定分を残している。以下は目録と若干の種説明である。機会を与えてくださった同氏に対して感謝申し上げる。採集者は全て伊藤氏である。目録中の採集例の末尾の(L)はライトトラップを表している。



晩秋の東栄町の本郷地区15-XI-2008

目録

クビナガカメムシ科Enicocephalidae

- 1) ヒメクビナガカメムシ *Hoplitocoris (Pseudenicocephalus) lewisi* (Distant, 1883) 上小田, 12-VI-1990. 1ex. L. VII-1994. 1ex. L. 30-VI-1996. 1ex. (L) .

カタビロアメンボ科Veliidae

- 1) ケシカタビロアメンボ *Microvelia douglasi* Scott, 1874 上小田, データ不明 1ex.

アメンボ科Gerridae

- 1) シマアメンボ *Metrocoris histrio* (B. White, 1883) 上小田, 1ex. 記録記述なし

2) アメンボ

Gerris (Aquarius) paludum paludum (Fabricius, 1794) 眞地, 18-VII-1997. 2exs.

3) ヒメアメンボ

Gerris latiabdominis Miyamoto, 1958 下田, 13-VI-1995. 1ex.: 上小田, 26-VI-1996. L.

タイコウチ科Nepidae

- 1) ミズカマキリ *Ranatra chinensis* Mayer, 1865 下田, 17-VI-1995. 1ex.

ミズムシ科Corixidae

1) ハイイロチビミズムシ

Micronecta (Basileonecta) sahlbergi (Jakovlev, 1881) 上小田, 16-VI-1994. 1ex. L. 14-VII-1994. 1ex. (L) .

2) コチビミズムシ *Micronecta (Micronecta) guttata* Matsumura, 1905 上小田, 16-VI-1994. 2exs. (L) .

3) エサキコミズムシ *Sigara (Pseudovermicorixa) septemlineata* (Paiva, 1918)

下田, 18-VII-1995. 1ex. (L) .

マツモムシ科Notonectidae

1) マツモムシ *Notonecta triguttata*

Motschulsky, 1861 上小田, 2-VIII-1997. 1ex. (L) .

2) コマツモムシ *Anisops ogasawarensis*

Matsumura, 1915 上小田, 14-IX-1990. 1ex.

カスミカメムシ科Miridae

1) ヒョウタンカスミカメ *Pilophorus setulosus* Horvath, 1905 上小田, 26-IV-1996. 1ex. (L) .

2) クロツヤチビカスミカメ *Sejanus potanini* (Reuter, 1906) 上小田, 11-VII-1996. 1ex. (L) .

3) マツノヒゲボソカスミカメ *Alloetomus*

simplus (Uhler, 1896) 平州記念館, 19-IV-1994. 1ex.

4) グンバイカスミカメ *Stethoconus japonicus*

(Schumacher,1910) 上小田,25-IX-1993.1ex.L.7-VIII-1994.1ex.

5) アカアシカスミカメ *Onomaus lautus*

(Uhler,1896) 三ツ瀬,23-X-1996.1ex.

6) ウスアカカスミカメ *Adelphocoris piceosetosus*

Kulik,1965 金地,21-X-1997.1ex. (L) .

7) ブチヒゲクロカスミカメ

Adelphocoris triannulatus (Stal,1858) 上小田,15-VI-1996.1ex. (L) .

8) ツマグロハギカスミカメ *Apolygus subpulchellus*

(Kerzhner,1987) 上小田,2-X-1996.1ex.L.

9) ヨツボシカスミカメ *Bertsia lankana*

(Kirby,1891) 上小田,10-IV-1996.1ex.L.

10) マダラカスミカメ *Cyphodemia saundersi*

(Reuter,1896) 上小田,8-IV-1995.1ex.,17-IV-1996.1ex.

11) メンガタカスミカメ *Eurystylus coelestialium*

(Kirkaldy,1902) 御園,8-IX-1995.1ex.

12) ハギメンガタカスミカメ *Eurystylus luteus*

Hsiao,1941上小田,10-IX-1996.1ex. (L) .

13) オオチャイロカスミカメ *Orientomiris tricolor*

(Scott,1880) 上小田,6-III-2002.1ex.,7-IX-2005.1ex.,18-X-2005.1ex.

14) オオマダラカスミカメ *Phytocoris ohataensis*

Linnavuori,1963下田,7-VII-1993.1ex. (L) .

15) アカスジカスミカメ *Stenotus rubrovittatus*

(Matsumura,1913) 大入川,28-IX-1995.1ex.

16) ウスモンミドリカスミカメ *Taylorilygus apicalis*

(Fieber,1861) 上小田,30-X-1998.2exs.

17) ケブカカスミカメ *Tingitotum perlatum*

Linnavuori,1961 上小田,2-X-1996.1ex. (L) .

18) イネホソミドリカスミカメ

Trigonotylus caelestialium (Kirkaldy,1902)

上小田,4-VII-1994.1ex. (L) .

ハナカメムシ科Anthocoridae

1) ナミヒメハナカメムシ

Orius (Heterorius) sauteri (Poppius,1909)

下田? 4-VII-1994.1ex. (L) .

2) ヤサハナカメムシ *Amphiareus obscuriceps*

(Poppius,1909) 下田,22-VI-1995.1ex. (L) .

マキバサシガメ科Nabidae

1) アシプトマキバサシガメ

Prostemma hilgendorffi Stein,1878 上小田,20-VI-1997.1ex.

2) アカマキバサシガメ *Gorpis brevilineatus*

(Scott,1874) 三ツ瀬,1-V-1997.1ex.

3) ハネナガマキバサシガメ *Nabis stenoferus*

Hsiao,1964 下田,1-VIII-1995.1ex. (L) .

グンバイムシ科Tingidae

1) キクグンバイ *Galeatus spinifrons* (Fallen,1807) 上小田,15-V-1998.1ex.21-V-2003.1ex.

2) トサカグンバイ *Stephanitis takeyai* Drake et Maa,1953 金紫,10-VI-1995.1ex.:上小田,31-V-2003.1ex.

サシガメ科Reduviidae

1) ヨコツナサシガメ *Agriosphodrus dohrni*

(Signoret,1862) 市場,28-V-1995.1ex.:上小田,31-V-1997.1ex.80年代平地で分布が拡大してきた種である。

2) ハネナシサシガメ *Coranus dilatatus*

(Matsumura,1913) 上小田,15-VII-1998.1ex.17-VIII-2000.1ex. 山地性の種であり、愛知県のサシガメの仲間では記録が少ない。

3) アカサシガメ *Cydnocoris russatus* Stal,1866 上小田,17-VI-2005.1ex.

4) オオトビサシガメ *Isyndus obscures* (Dallas,1850)

下三山林道,29-X-1999.1ex.:上小田,13-I-1997.1ex.

5) アカヘリサシガメ *Rhynocoris ornatus*

(Uhler,1896) 上小田,16-V-1996.1ex.20-V-1998.1ex.

6) シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis*

(Stal,1861) 上小田,8-VI-1998.1ex.26-VI-2004.1ex.

7) ヤニサシガメ *Velinus nodipes* (Uhler,1860)

上小田,16-VI-1998.1ex.

8) トビイロサシガメ *Oncocephalus assimilis*

Reuter,1882 11-VI-1996.1ex.L.23-IX-1996.1ex. (L) .

9) マダラカモドキサシガメ

Empicoris rubromaculatus (Blackburn,1889)

下田,5-IX-1995.1ex. 暖地性の種である。

10) ビロウドサシガメ *Ectrychotes andreae*

(Thunberg,1784) 上小田,11-VI-1996.1ex.L.6-X-1997.1ex.

11) クビグロアカサシガメ *Haematoloecha delibuta*

(Distant,1883) 上小田,29-III-1998.1ex.

12) アカシマサシガメ *Haematoloecha nigrorufa*

- (Stal,1866) 上小田,14-V-1996.1ex.18-IV-1997.1ex.
- 13) クロモンサシガメ *Peirates turpis* Walker,1873
大栗毛林道,24-VII-1992.1ex.:上小田,24-VI-1995.1ex.
- 14) キイロサシガメ *Sirthenea flavipes* (Stal,1855)
上小田,22-VI-1995.1ex.L.31-V-1996.1ex. (L) .
ヒラタカメムシ科 *Aradidae*
- 1) ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis*
Bergroth,1885 上小田,12-V-2002.1ex.20-IV-2004.1ex.
- 2) オオヒラタカメムシ *Mezira scabrosa*
Scott,1874上小田,15-V-1998.1ex.
ナガカメムシ科 *Lygaeidae*
- 1) セスジナガカメムシ *Arocatus melanostoma*
Scott,1874 大栗毛林道,19-VI-1992.1ex.:上小田,12-V-1997.1ex.
- 2) ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus*
Distant,1883本郷,16-III-1990.1ex.5-V-1993.1ex.
- 3) ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon*
(Thunberg,1784) 上小田,10-IV-1996.1ex.26-VII-1996.1ex.L.8-IV-1998.1ex.:名場,13-VIII-1997.1ex.:三ツ瀬,10-IV-1997.1ex.
- 4) ヒメオオメカメムシ *Geocoris proteus*
Distant,1883 下田,5-IX-1995.1ex.
- 5) ホソコバネナガカメムシ *Macropes obnubilus*
(Distant,1883) 本郷,20-VI-1993.1ex.
- 6) オオメカメムシ *Picocoris varius* (Uhler,1860)
金紫,2-VII-1995.1ex.:上小田,20-IV-1999.1ex.
- 7) クロスジヒゲナガカメムシ
Pachygrontha similis Uhler,1896上小田,7-IV-1998.1ex.3-XI-2002.1ex.
- 8) オオモンシロナガカメムシ
Metochus abbreviatus (Scott,1874) 地上,3-VII-1993.1ex.:小田敷,7-VI-1997.1ex.
- 9) チャイロナガカメムシ *Neolethaeus dallasi*
(Scott,1874) 芦池,22-X-1993.1ex.:上小田,10-IX-1996.1ex. (L) .
- 10) モンシロナガカメムシ *Panaorus albomaculatus*
(Scott,1874) 上小田,9-II-2005.1ex.
- 11) アムールシロヘリナガカメムシ
Panaorus csikii (Horvath,1901) 上小田,2-VIII-1997.1ex.L.2-VII-2005.1ex.
- 12) シロヘリナガカメムシ *Panaorus japonicus*
(Stal,1874) 上小田,15-IV-1998.1ex.
- 13) チャモンナガカメムシ *Paradieuches dissimilis*
(Distant,1883) 下田,8-VI-1996.1ex.
- 14) キベリヒョウタンナガカメムシ
Paraparomius lateralis (Scott,1874) 上小田,11-VI-1996.1ex.L.30-VI-1996.1ex. (L) .
- 15) コバネヒョウタンナガカメムシ
Togo hemipterus (Scott,1874) 本郷,3-VI-1995.1ex.:上小田,7-VII-1997.1ex.23-I-1997.1ex.
メダカナガカメムシ科 *Malcidae*
- 1) メダカナガカメムシ
Chauliops fallax Scott,1874 下田,11-VI-1995.1ex.:東蘭目,15-VI-1995.1ex.
ホシカメムシ科 *Pyrhhororidae*
- 1) フタモンホシカメムシ *Pyrhhorocoris sibiricus*
Kuschakewitsch,1867 上小田,21-VI-1997.1ex.5-V-2002.1ex.
- オオホシカメムシ科 *Largidae*
- 1) ヒメホシカメムシ *Physopelta parviceps*
Blore,1931 下田,7-VII-1995.1ex.L.6-VIII-1995.1ex.L.
- 2) オオホシカメムシ *Physopelta gutta*
(Bremeister,1834) 大池公園,31-X-1992.1ex.
ホソヘリカメムシ科 *Alydidae*
- 1) クモヘリカメムシ *Leptocoris chinensis*
(Dallas,1852) 上小田,10-VII-1995.2exs.
- 2) ホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris*
(Fabricius,1775) 金紫,2-VII-1995.1ex.:上小田,18-VI-2005.1ex.
ヘリカメムシ科 *Coreidae*
- 1) ホオズキカメムシ *Acanthocoris sordidus*
(Thunberg,1783) 上小田,24-VI-1995.1e.15-V-1997.1ex.
- 2) オオクモヘリカメムシ
Anacanthocoris striicornis (Scott,1874) 金紫,2-VII-1995.1ex.:万場,24-IX-1996.1ex.
- 3) ホソハリカメムシ *Cletus punctiger*
(Dallas,1852) 下田,20-VI-1995.1ex.:上小田,10-VII-1995.1ex.
- 4) ヒメハリカメムシ *Cletus trigonus*
(Thunberg,1783) 上小田,14-IX-1996.1ex.
- 5) ハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus dilatatus*

Horvath,1879 東園目,15-VI-1995.1ex.:金紫,24-VII-1995.1ex.

6) ホシハラビロヘリカメムシ

Homoeocerus unipunctatus (Thunberg,1783)

東園目,15-VI-1995.1ex.:本郷,21-VI-2005.1ex.

7) オオツマキヘリカメムシ

Hygia (Colpura) lativentris (Motschulsky,1866)

大栗毛林道,19-VI-1992.1ex.:東園目,15-VI-1995.1ex.
旧作手村より奥、標高の高いところでふつうに見
いだされる種である。

8) ツマキヘリカメムシ

Hygia (Hygia) opaca (Uhler,1860) 東園目,15-VI-1995.1ex.:上小田,2-VII-2000.1ex.

9) キバラヘリカメムシ

Plinactus bicoloripes Scott,1874

本郷,19-X-1993.1ex.:上小田,7-XII-2003.1ex.

ヒメヘリカメムシ科Rhopalidae

1) スカシヒメヘリカメムシ

Liorhyssus hyalinus (Fabricius,1794) 金紫,2-VII-1998.1ex.:上小田,9-X-1996.1ex.

2) ブチヒゲヘリカメムシ

Stictopleurus punctatonevrosus (Goeze,1773)

上小田,28-IX-1996.1ex.15-XI-1997.1ex.

3) アカヒメヘリカメムシ

Rhopalus (Aeschynteles) maculatus (Fieber,1836)

上小田,28-IV-1996.1ex.30-XI-1997.1ex.

クヌギカメムシ科Urostylidae

1) クヌギカメムシ

Urostylis westwoodi Scott,1874

名場,13-VII-1997.1♀. (L)

マルカメムシ科Plataspidae

1) ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttulum*

Motschulsky,1859 芦池,19-V-1993.1ex.

2) クズマルカメムシ

Coptosoma semiflavum Jakovlev,1890

大栗毛林道,30-VII-1989.1ex.愛知県では、報告例が
少ない種である。

3) マルカメムシ

Megacopta punctatissima (Montandon,1894)

上小田,16-V-1997.1ex.12-VIII-2002.1ex.

ツチカメムシ科Cydniidae

1) ツチカメムシ *Macroscytus japonensis*

(Scott,1874) 本郷,15-IX-1992.1ex.

キンカメムシ科Scutelleridae

1) アカスジキンカメムシ

Poecilocoris lewisi Distant,1883 上小田,2-VI-1996.1ex. (ニンプ) .19-V-2002.1ex.20-V-2002.1ex.
確認される個体数が減って来ている種である。

2) チャイロカメムシ *Eurygaster testudinaria*

(Geoffroy,1785) 上小田,5-VI-1996.2ex.低山地に多
く産する種である。秋季に見いだされる事が多く
報告例が少ない。

カメムシ科Pentatomidae

1) アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum*

(Westwood,1873) 大栗毛林道,19-VI-1992.1ex.:上小
田,21-VII-1996.1ex.

2) イネクロカメムシ *Scotinophara lurida*

(Burmeister,1834) 新池,25-V-1993.1ex.L

3) ウズラカメムシ *Aelia fieberi* Scott,1874

齊山,30-VI-1989.1ex.

4) トゲカメムシ

Carbula humerigera (Uhler,1860) 金紫,2-VII-1995.1ex.:長良,22-IX-1995.1ex.:眞地,13-VI-1997.1ex.

(ニンプ) .L:上小田,20-V-2005.1ex. (ニンプ)

5) ナガメ *Eurydema rugosa* Motschulsky,1861

東園目,5-VIII-1995.1ex.:上小田,4-VII-1995.1ex.

6) トゲシラホシカメムシ *Eysarcoris aeneus*

Scopoli,1763 上小田,19-V-1998.1ex.19-VIII-2000.1ex.

7) ムラサキシラホシカメムシ

Eysarcoris annamita Breddin,1913 東園目,15-VI-1995.1ex.:三ツ瀬,1-V-1997.1ex.:西園目,9-VIII-1998.1ex.:上小田,29-IX-2001.1ex.

1998.1ex.:上小田,29-IX-2001.1ex.

8) マルシラホシカメムシ *Eysarcoris guttiger*

(Thunberg,1783) 本郷,31-V-1992.1ex.:上小田,13-IV-1999.1ex.1-VI-2005.1ex.

9) シラホシカメムシ

Eysarcoris ventralis (Westwood,1837)

上小田,22-VI-1998.1ex.19-VIII-2000.1ex.

10) クサギカメムシ

Halyomorpha picus (Fabricius,1794)

下田,6-VIII-1995.1ex.L:上小田,13-X-1997.1ex.

11) ツマジロカメムシ

Menida violacea Motschulsky.1861

小田敷.7-VI-1997.lex.

12) アオクサカメムシ *Nezara antennata* Scott.1874
下田.1-VIII-1995.lex.24-VIII-1995.lex.L.: 上小田.25-V-2002.lex.

13) ミナミアオカメムシ *Nezara vividula* (Linnaeus.1758) 下田.4-VIII-1995.lex. (L) .暖地性の種であるが、90年代ごろから各地で見いだされるようになった種である。

14) ツノアオカメムシ

Pentatoma japonica (Distant.1882)

上小田.10-IX-1996.lex.L.22-IX-1997.lex.: 奈根.8-X-2002.lex.山地性の代表的な種であり、奥三河山岳地方ではふつうに産する。

15) イチモンジカメムシ *Piezodorus hybneri* (Gmelin.1789) 下田.1-VIII-1995.lex.L.: 上小田.15VI-1996.lex. (L) .

16) チャバネアオカメムシ

Plautia crossota stali Scott.1874

下田.1-VIII-1995.lex.L.: 上小田.25-V-1996.lex. (L) .

17) タマカメムシ *Sepontia aenea* Distant.1883
上小田.8-VI-1998.lex.小型種であり、報告例が少ない種である。

エビイロカメムシ科 *Phyllocephalidae*

1) エビイロカメムシ *Gonopsis affinis* (Uhler.1860)
東山.18-IX-1996.lex.

ツノカメムシ科 *Acanthosomatidae*

1) セアカツノカメムシ *Acanthosoma denticauda* Jakovlev.1880 東山.23-V-1996.lex.: 御園.8-IX-1998.lex.: 上小田.2-IX-2002.lex.

2) オオツノカメムシ *Acanthosoma giganteum*

(Matsumura.1913) 大栗毛林道.24-VII-1992.lex.暖地性の種であるが、かなりの内陸地まで生息していたことになる。

3) アオモンツノカメムシ *Dichobothrium nubilum* (Dallas.1851) 名場.13-VIII-1997.lex. (L) .

4) ベニモンツノカメムシ

Elasmostethus humeralis Jakovlev.1883

椈の湖.20-VIII-1992.lex.: 上小田.26-VIII-1996.lex.

5) エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii* Hasegawa.1959 上小田.15-VII-1996.lex.

以上25科113種を記録した。これまで東栄町は調査の空白地帯であり、この試料が埋め合わせをする恰好の材料ともなった。この中で、サシガメ科の種を多く産していることは、通常の採集では得られないことが多く、例えば、マダラカモドキサシガメは薪などの中から見いだされる種であり、自宅周辺の耕作などを通じて地に着いた調査が反映されていることを物語っているものと思われる。また、ツノカメムシ科の種が少ないことは奥三河山岳地方との異なりを示している。標高が低いところで170m、高いところで明神山の1016mである。いわば平地と山岳との中間的な地域であると位置づけられる。

参考文献

- 1) 浅岡・家城 (1990) 愛知県の異翅目.愛知県の(上). 愛知県
- 2) 東栄町役場編 (2007) 東栄町史.東栄町
- 3) 矢崎充彦・石田和男 (2008) 東海地方の水生半翅類 住香蝶60 (234) :165-200.名古屋昆虫同好会.

サトヤマシモフリコメツキの新分布地

大 平 仁 夫

サトヤマシモフリコメツキ (*Actenicerus kidonoi*) の愛知県内の分布地は、原記載以降のは大平 (2008) が岡崎市額田地域の切山、雨山、鳥川、保久を記録したが、2008年の豊田市史資料調査の資料の中に、以下の標本が見出されたので、

ここに追加記録する

- ◇ 豊田市広瀬の山林, 1♂, 29-IV-2008, 大平採集。
- ◇ 豊田市花見沢町の山林, 18-VI-2008, 大平採集。

豊田市三国山と三河高原牧場のコメツキムシの記録

大平 仁 夫

豊田市は周辺の町村を合併して、西三河から東三河にかけての広大な面積の自然環境を有する市になった。この合併を機に、豊田市内の自然環境の調査が2008年から始められた。昆虫部門の総括は間野隆裕氏を中心に40名近い陣容からなり、三河昆虫研究会の会員も多くの方が参加されている。本年は初年度にあたるため、主として調査ポイント探しに終わったが、今までに調査ができなかった地域にも入ることができた。その中で上記の2地域で見出したコメツキムシ類を報告することにした。

本文を草するにあたり、調査に同行して支援をいただいた三河昆虫研究会の副会長の山崎隆弘氏に感謝の意を表す。なお、この記録は豊田市史資料調査で得られた資料である。

「三国山」(10-VI-2008)

長野県と岐阜県とが接する稲武町の県境の標高1,161mの山で、山頂付近は‘池ヶ平’と呼ばれ、牧場やハングライダーの練習場などもある。ここは稲武町史(1996)の資料集めで訪れた以来のことで、山頂部の森林はかなり伐採されて開けていたが、往時の面影も随所に残っていた。

1. *Agrypnus binodulus binodulus*

(Motschulsky, 1861) サビキコリ (5♂♂1♀)

雑木林や牧草地に普通である。三国山からは大平(1994)が記録している。

2. *Limonius approximans* (Lewis, 1894)

キアシヒメカネコメツキ (1♂)

愛知県内では個体数が少なく、三河の山間部で数個体が見出されているのみである。三国山からは大平(1994)が記録している。

3. *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1889)

オオシモフリコメツキ (3♂♂)

山地の雑木林で見出される種である。三国山か

らはこれが最初の記録である。

4. *Actenicerus pruinus* Motschulsky, 1861

シモフリコメツキ (1♀)

前種と同様に山林性であるが、より開けた牧草地の林縁に分布している。三国山からは大平(1994)が記録している。

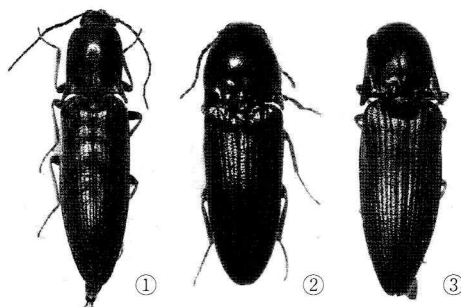


図1.1.カアシシモフリコメツキ, ♂ (体長13mm)

2. タンバコクロコメツキ, ♂ (体長7mm)

3. コミドリヒメコメツキ, ♂ (体長8mm)

5. *Actenicerus kiashianus* (Miwa, 1928)

キアシシモフリコメツキ (1♂) (図1, 1)

体長は13~14mm内外。体の両側は平行状で、真鍮色の光沢を有する。上翅の毛による斑紋は一般に不明瞭な個体が多い。三国山からは大平(1996)が記録している。

6. *Melanotus annosus* Candèze, 1865

クロツヤクシコメツキ (4♂♂)

草原や牧草地に分布する普通種であるが、三国山からはこれが最初の記録である。

7. *Melanotus correctus correctus* Candèze, 1865

ヒラタクロクシコメツキ (2♂♂)

山地の雑木林に広く分布する種である。

7. *Melanotus erythropygus* Candèze, 1873

コガタクシコメツキ (17exs.)

雑木林に分布する普通の種で、三国山からは大平(1994)が記録している。

8. *Melanotus japonicus* Ôhira, 1974

ハネナガオオクシコメツキ (1♂)

愛知県では主として三河地方の山地で見出されており、三国山では大平 (1994) が記録している。

〔三河高原牧場〕 (23-V-2008)

東大林町の県営「三河高原牧場」は、近くにキャンプ場やハイキングコースや池などもあり、標高は500m内外であるが、広大な牧場は高原気分が満喫できる場所である。ここからの本科の種は今までに記録されていないと思われる。

1. *Agrypnus binodulus binodulus*
(Mötschulsky, 1861) サビキコ (4♂♂5♀♀)
各地に普通の種である。

2. *Ampedus tamba* Kishii, 1976
タンバクロコメツキ (2♂♂) (図1, 2)

体長7mm内外で黒色の小形種である。三河地方には本種に類似した種が他にも記録されているが、種名についてはさらに調査が必要であるので、ここでは上記種として記録するに留める。この学名では面ノ木峠産を大平 (1966) が図示して報告している。

3. *Ampedus hypogastricus hypogastricus*
(Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ (1♂1♀)

幼虫が松の朽木に入る普通種であるが、最近の松枯れの減少で幼虫が入る朽木が少なくなり個体数が激減し、むしろ珍種になっている。

4. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)
キバネホソコメツキ (1♂3♀♀)

春から初夏にかけて雑木林の花上で見られる。

5. *Vuilletus viridis subopacus* (Nakne, 1959)
コミドリヒメコメツキ (1♀) (図1, 3)

通に見られた種であったが、最近では里山周辺では見ることが困難に近い状態になっており、ここではやっと1個体を見出したのみである。幼虫はコケの下側に生息することが判明している。

6. *Melanotus annosus* Candèze, 1865
クロツヤクシコメツキ (1♂)

牧草地や河川敷などの開けた場所で見出される種である。

7. *Melanotus correctus correctus* Candèze, 1865
ヒラタクロクシコメツキ
山地の雑木林に多い種である。

8. *Melanotus senilis senilis* Candèze, 1865
クロクシコメツキ (1♂)
畑地や牧草地に多い種である。

9. *Melanosus erythropygus* Candèze, 1873
コガタクシコメツキ (1♂1♀)
雑木林に普通の種で、成虫は栗の花にも集まる。

10. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)
カバイロコメツキ (20exs.)
雑木林性の種である。幼虫は土壤中に生息し、牧草や栽培植物の根茎に入ると云われている。牧場の林縁に多く見られた。

引用文献

- 大平仁夫 (1994) 三河三国山のコメツキムシ。佳香蝶, 46 (177) : 7-9.
----- (1996) 稲武町史-自然-資料編 (コメツキムシ科) : 203-209.
----- (1996) 三河地方から採集されるコメツキムシについて (14) . 佳香蝶, 48 (187) : 33-34.

大平仁夫

〔昭和の森〕 (21-IV-2008)

1. *Cryptalaus berus* (Candèze, 1865)
ウバタマコメツキ (1♂2幼虫)
2. *Ampedus hypogastricus hypogastricus*
(Candèze, 1870) アカハラクロコメツキ (1♀)
3. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)
キバネホソコメツキ (2♀♀)

4. *Melanotus cete cete* (Candèze, 1860)
アカアシオオクシコメツキ (1♀)
5. *Melanotus koikei* Kishii et Ôhira, 1956 (1♂♂)
ヒラタクシコメツキ (1♂)

クロスジツカクの生息確認-豊田市南部の矢作川河川敷-

岩 月 学

1. はじめに

クロスジツカク *Notoxus haagi* Marsul は、アリモドキ科イツカク属に所属する種で、「愛知県の昆虫」(上)には記録されていないが、県内では次の産地が知られている。

◇1970年6月26日：名古屋市守山区(庄内川)、河路掛吾採集。

◇1985年6月30日：岡崎市矢作、大平仁夫採集。矢作川河川敷の草地で見出される。

その後、長い間観察されず、しかもここ10年あまりの三河地方の市町村の調査でも記録されていない。

筆者も長らく矢作川堤防やその河川敷に足を運んできたが、2006年から採集することができたので、ここに若干知り得たことを報告をしておきたい。成虫は体長5~6mmで細長くて赤褐色。前胸背板の前縁は太く長く前方に突出して頭部を覆うという特異な形態をしている。

2. 観察記録と考察

本種についての図鑑などの記述をまとめると次のようになる。「成虫は6月から9月にかけて見られ、砂地、ゴミの下、樹の葉の上などにいる。灯火にも飛来する。関東地方では普通の種である」。以下に採集時のメモでこの生態を

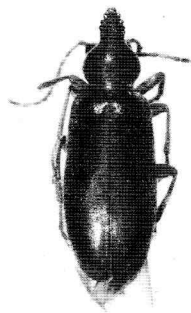


写真1. 水源町で採集のクロスジツカク(27-VIII-2008)

- ・2006年7月14日：豊田市畷部町宗定の矢作川河川敷(水面より約60cm高い砂地)のアカメヤナギの、地面より50cmほどの枝で叩き網で3頭採集。
- ・2007年5月29日：豊田市畷部東町宗定の調査では発見できなかった。



写真2. 豊田市渡刈町の河川敷

- ・2007年7月1日：豊田市渡刈町の矢作川河川敷。ネコヤナギやアカメヤナギで叩き網1回で数頭というほど多数を確認。なおカワヤナギからは得られなかった。
 - ・2007年7月31日：豊田市畷部町宗定で3頭確認した。
 - ・2007年9月10日：豊田市渡刈町で2頭確認した。なお、この渡刈の生息場所は広い砂地があって、車やバイクが走っている。
 - ・2008年8月27日：豊田市水源町の水源ダム下流の大きな石が点在する中の、根元が砂地のネコヤナギ7-8本から14頭確認した。
- 以上の観察などを総合すると、次のことが言えそうである。
- 1) 「6~9月に見られ」は、およそその通りである。
 - 2) 「樹木の葉上」は、ヤナギであり、「ゴミ」も大水での冠水跡が鮮やかに残っている。
 - 3) 「関東地方では普通」は、この地域では利根川とその支流が多く、愛知県下の記録も筆者の記録もすべて河川敷である。また「ヤナギ」が妥当である。
 - 4) 灯火に飛来は未確認である。
- いずれにしても、本種の生息には葉の柔らかいヤナギと河川敷の砂地が深く関係しており、本種の生息の重要な条件になっているように思われる。

大平 (1985) にある国道1号線矢作橋付近は掛け替え工事中であり、それから下流域の河川敷きの砂地帯は草地化が著しいのか、生息が確認できていない。

終わりに文献を御教示いただいた蟹江 昇氏と

吉鶴靖則氏に謝意を表する。

参考文献

河路掛吾 (1989) 佳香蝶, 41 (157) : 14.

大平仁夫 (1985) 新編岡崎市史 14 (自然) : 1071.

岡崎市におけるミツノエンマコガネの分布について

鈴木 栄 二

ミツノエンマコガネ *Onthophagus tricornis* Wiedemann (図1) は日本に産するエンマコガネの仲間では最大の種である。

愛知県では庄内川、矢作川、豊川などの河川沿いに分布を広げているといわれている。矢作川では豊田市内の各地で普通に見られ、最上流部は旭町に達するという。

筆者は岡崎市内の矢作川を中心に本種の分布を魚肉のベイトトラップにより調査する機会を得たので、その結果を報告する。

- 1 調査期間 2008年6月9日から7月24日
- 2 調査地点と採集結果 (図2参照)

矢作川右岸

| | | | |
|---|----------|-----------|--------|
| A | 豊田市畝部東町 | 06-VII-08 | 3♀ |
| B | 岡崎市北野町 | 06-VII-08 | 1♂ |
| C | 岡崎市矢作町 | 01-VII-08 | 1♀ |
| D | 岡崎市渡町 | 01-VII-08 | 14♂ 3♀ |
| E | 岡崎市下佐々木町 | 01-VII-08 | 3♂ 2♀ |

矢作川左岸

| | | | |
|---|---------|-----------|-------|
| F | 岡崎市細川町 | 10-VII-08 | 3♂ 1♀ |
| G | 岡崎市仁木町 | 09-VI-08 | 3♂ |
| H | 岡崎市八帖南町 | 20-VI-08 | 1♂ 1♀ |
| I | 岡崎市赤渋町 | 14-VI-08 | 3♂ 1♀ |
| J | 岡崎市上青野町 | 29-VI-08 | 1♀ |
| K | 西尾市志貴野町 | 09-VI-08 | 1♀ |
| | | 14-VI-08 | 4♂ 3♀ |

矢作川支流青木川

| | | | |
|---|----------|-----------|-------|
| L | 岡崎市東阿知和町 | 10-VII-08 | 4♂ 1♀ |
|---|----------|-----------|-------|

矢作川支流乙川

| | | | |
|---|--------|-----------|-------|
| M | 岡崎市丸山町 | 10-VII-08 | 採集できず |
|---|--------|-----------|-------|

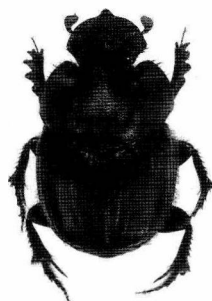


図1. ミツノエンマコガネ

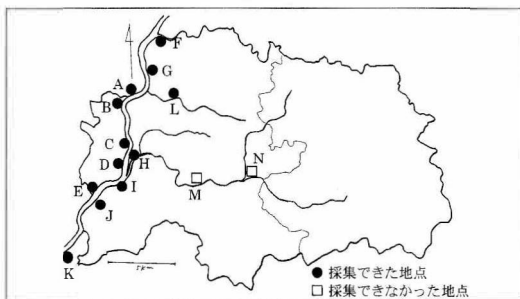


図2. ミツノエンマコガネの採集地点

- N 岡崎市茅原沢町 24-VII-08 採集できず
- 3 岡崎市における分布について

- ・岡崎市を流れる矢作川の全域にわたって採集することができた。
- ・支流の乙川は約30年前には記録があるものの、今回は採集できなかった。

4 参考文献

大平仁夫 (1985) 新編岡崎市史14(自然)岡崎市の甲虫類: 1024-1096.

岩月 学 (2005) 豊田市自然環境基礎調査Ⅶ昆虫類: 224-225.

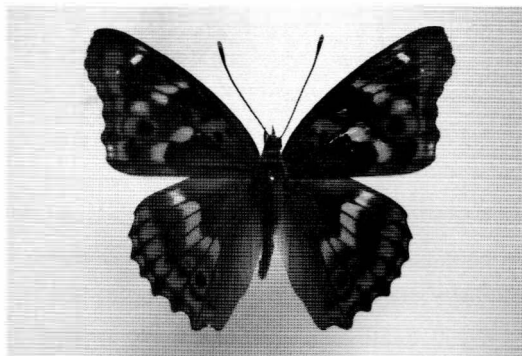
刈谷市北部でコムラサキを記録

小鹿 亨

筆者は、刈谷市の北部では記録が少ないと思われるコムラサキ *Apatura metisubstituta* を、愛知教育大学の西側に位置する草野池で採集しているので、本種の分布記録として報告する。

《データ》 2008年8月30日 刈谷市井ヶ谷町草野池 1♂目撃, 2008年9月14日; 2♀♀, 他に4♂♂目撃。

前翅・後翅の状態や採集時期などから、明らかに第3化の成虫と考えられる。草野池の周囲には、あまり多くはないものの、カワヤナギ *Salix gilgiana* が見られ、これに発生しているようであり、成虫もその周辺で見られ、枝先に止まって、近くに侵入する他の個体を追い出す占有行動を行っているようすが見られた。なお、近くには境川があり、その堤防や河川敷にはヤナギ類が見られることから、連続した発生地になっているものと



刈谷市草野池産コムラサキ♂ 2008年9月14日

考えられる。

写真の個体を含めて数個体を目撃しているが、遺伝型のクロコムラサキの表現形質をもつものは観察できなかった。

岡崎市内でハナノミ類の甲虫2種を採集

金田 吉高

筆者は愛知県岡崎市一色において、下記の2種のハナノミ類の甲虫を採集したので記録する。

1. アヤオビハナノミ

Glipa ohgushii (Chujo)

(写真1)

調査標本：岡崎市一色、31-VII-2006, 金田採集。

(5ex s.)

県内では2番目の記録と思われる。桜の立ち枯れに飛来していた。

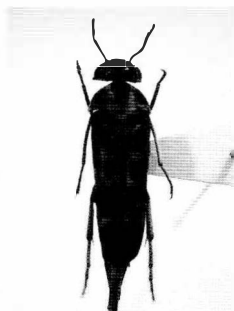


写真1. アオヤビハナノミ

2. ミツオホシハナノミ

Hoshihananomia mitsuoi Nakane et Nomura

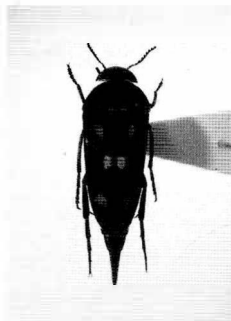
(写真2)

調査標本：岡崎市一色、31-VII-2006, 金田採集。(6ex s.)

県内では初記録と思われる。上記と同じ桜の立ち枯れに飛来していた。

なお、これら2種のハナノミ類は、「西三河野生生物研究会通信No.3」に短報と

して生態を中心に報告した写真2. ミツオホシハナノミが、詳しいデータが記録されていないので、ここに改めて報告することにした。終わりに、この記録の報告を勧めていただいた、大平仁夫先生に感謝申し上げます。



参考・引用文献

穂積俊文ほか (1990) 愛知県の昆虫 (上) : 277 (no. 4) .
 (愛知県)

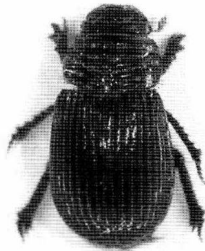
黒沢良彦ほか (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ) : 379 (no. 26) , 383 (no. 7) . (保育社)

金田吉高 (2008) 愛知県岡崎市にてアヤオビハナノミ・ミ
 ツオホシハナノミを同時観察. 西三河野生物研究会
 通信, (3) : 3.

宝飯郡御津町(現・豊川市)の埋立地でセマルケシマグソコガネを採集

春 田 祥 博

三河湾造成地の昆虫については、本会の山崎隆弘氏や浅岡孝知氏を中心に調査が続けられているが、筆者は2007年7月に宝飯郡御津町佐脇浜(現・豊川市)においてセマルケシマグソコガネを多数確認しているので報告しておく。



本種は体長2~3mm程度の小型のフン虫で、河川敷や海岸などに生息し、通年姿を見られる普通種である。採集法は砂浜の植物の根際を篩で掬って採るのが定法であるが、漂着物の下などにも集まり、灯火にもよく飛来する。生態は謎の部分が多く、フン虫と言ってもフンには集まらない。

セマルケシマグソコガネ

Psammodytes convexus

愛知県宝飯郡御津町佐脇浜(現・豊川市御津町

佐脇浜) 3-VII-2007.1ex, 23-VII-2007.3exs, 26-VII-2007.3exs, 27-VII-2007.2exs, 30-VII-2007.6exs.

採集場所は筆者の勤務先で、灯火に飛来していた個体を採集した。

ここで働くようになって10年になるが、夏は夜勤の休憩中に敷地内の灯火を見て回るのが日課になっている。しかし本種の姿を見たのはこの年が初めてで、7月は連日多数の個体が飛来した(記録は持ち帰って標本にした数のみ)。

しかし8月に入るとパツパツと姿が見られなくなり、翌2008年は2006年までと同様に1頭も姿を見ることはなかった。

したがって2007年7月のこの大量発生は、台風の影響や土砂の移入などで他地域から運ばれてきただけだったのかもしれないが、今後も注意深く本種の調査をしていきたいと思っている。

愛知県奥三河地方のタمامシ類2種の記録

城 殿 浩

筆者は奥三河地方で、記録の少ない下記の2種のタمامシ類を採集しているのでここに記録する。

1. ホソクリタمامシ *Toxoscelus matobai* Toyama
 ○北設楽郡設楽町段戸裏谷. 1ex., 27-VII-2008.
 ブナ(喬木)をスウィーピングして見出した。
 蟹江・戸田(2008)は豊田市稲武町面ノ木峠から記されている。

2. ダイミョウナガタمامシ
Agrilus daimio Obenberger

- 北設楽郡富山村茶臼山. 多数, 24-VI-2005.

クマシデをスウィーピングして見出した。他に静岡県浜松市佐久間町竜頭山からも得ている。蟹江・戸田(2008)は面ノ木峠、茶臼山、段戸裏谷、豊田市六所山から記録されている。

引用文献

蟹江 登・戸田尚希 (2008) 愛知県のタمامシ。
 佳香蝶, 60 (234) : 207-230.

豊川市御津山で得られたフン虫

春 田 祥 博

旧・宝飯郡御津町（2008年1月、豊川市に編入合併）にある御津山は、標高わずか94mの山であるが、夏になると多くの家族連れがカブトムシやクワガタの採集に訪れる、地元では有名な採集スポットである。



マメダルマコガネ

この山からの甲虫の記録としては、山崎(1977)、松野(1979)などがあるが、フン虫類については両氏が山麓の灯火で採集されたミツノエンマコガネの記録があるのみである。

筆者は2007年と2008年にこの山で下記の3種のフン虫を採集しているので、記録しておきたい。

1. コブマルエンマコガネ

Onthophagus (Gibbonthophagus) atripennis
1-VIII-2007, 4exs.

普通種。動物のフンだけでなく、腐敗動植物質にも集まる。筆者は車道脇の哺乳類や爬虫類の干からびた糞死骸の下から採集した。

2. センチコガネ

Phelotrupes (Eogeotrupes) laevistriatus

2-VIII-2008, 1ex.

同じく普通種。フンや腐敗動植物質、更には樹液にも集まるなど雑食性が強い。水で希釈した酢酸を入れたピットフォール・トラップ（以下TP）にて採集した。

3. マメダルマコガネ

Panelus parvulus 2-VIII-2008, 2exs.

本種は体長2~3mm程度の小型種であるが、日本では唯一、あのスカラベのように逆立ちをしてフン玉を転がす姿が確認されている、正真正銘の「ふんころがし」で雑食性が強い。PTにて採集。

最後に、マメダルマコガネの生息環境及びPTについてアドバイスを頂いた戸田尚希氏に感謝申し上げる。

参考文献

- 山崎隆弘, 1977. 宝飯郡御津山の採集品について,
三河の昆虫19: 73-76.
松野更一, 1979. 御津山のコガネムシ,
こめつきむし1: 11-13
(〒440-0085 豊橋市下地町5-1)

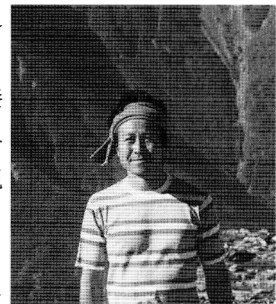
新シリーズ・昆虫と私(3)

虫採り小僧が虫採り少年となり、虫採り青年を経て今や虫採り中年・虫採りオヤジとなった。一番古い標本の日付を「正式な」ムシ屋としての出発点と考えると、経歴は35年を超えている。行動範囲はほとんど三遠南信に限られ、思えば年数だけが無駄に長い。

若い頃、ムシ屋の転機は、進学・就職・結婚と言われたものであるが、幸い三つの関門を転ばないで通り抜けることができた。こうした一文の得

にもならない、何の足しにもならない営みを、「趣味」などという教養主義的というか、上昇志向が強い言葉で表現するのは野暮であろう。やはり「道楽」がふさわしい。虫採り中年は程なく虫採り老人・虫

白 井 和 伸



南アルプス・聖岳を背に
(1995年8月、於赤石岳)

採りジジイとなるが、足腰達者で一生の道楽にしたいものである。

新シリーズ・昆虫と私(4)

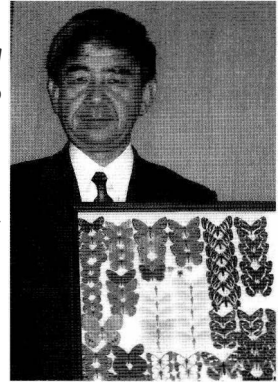
鈴木 栄

もう数が増えることのなくなってしまったチョウの標本箱には、1969年6月14日採集のミドリシジミと同日採集のヒメヒカゲがあります。両種ともに岡崎市大幡町で採ったもので、生物部員だった高校時代に独りで名鉄に乗り、本宿駅まで出かけて得たことを今でも鮮明に記憶しています。

ほぼ40年前の記憶が確かなのはどうしてでしょうか。たぶん、目指すものが得られたという満足感で心躍るという経験が、その虫を見るたびに起こり、強固な記憶になっていくためでしょう。昆虫のもつ不思議な魅力の一つだと思います。

「虫を“見る” 快楽を放棄したまま一生を終え

る人は、ほとんどバカに見える」とは、生物学者の池田清彦さんの言葉だそうですが、これからの私のできることは、子どもたちに「虫を見るきっかけ」をつくってやることだと思っています。



新シリーズ・昆虫と私(5)

尾崎 俊 寛

10年程前に現在の大館市に移りましたが、それまでは弘前氏に住んでいて、今でも採集調査は青森県が中心です。今回、大平仁夫会長の御依頼がありましたので、東北地方の秋田県に在住の会員ですが、筆を執らせていただきました。

カミキリ採集のために訪れた信州の御嶽山で渡辺昭彦氏に会ったことがきっかけとなり、コメツキムシを調べるようになりました。1983年のことです。丁度、大平先生が下山健作氏と共著で青森県のコメツキムシ類についての論文を発表され始めた頃で、保育社の甲虫図鑑も85年に出版され、知りたいと思う情報が増えた時期と重なったことは幸運でした。そして「青森県産コメツキムシ分布資料」(渡辺・尾崎, 1985)を残すことができました。しかし、名前だけの共著者でしたので、今後は文献や各地の情報を少しずつでも集めなくてはという思いを強く感じたものでした。

大平先生を訪ねて「三河昆虫研究会」に入室させていただいたのは88年のことです。以来、大平先生には標本の同定を始め、新種のコメツキムシを記載していただいたり、分類の専門家とのやり取りを教わる等、多くの御教示に与りました。



現在「宮城県のコメツキムシ」を纏めようと準備を進めていますが、できる限り精度の高いものを作って、これまでの御恩に少しでも報いることができればと思っています。

「三河昆虫研究会」の規約

1. 名 称 本会は「三河昆虫研究会」と称する。
2. 目 的 本会は会員相互の交流を図り、地域の昆虫類を調査研究し、生物多様性のある自然環境の保全に寄与することを目的とする。
3. 事 業 本会は次の事業を行う。
 1. 会報「三河の昆虫」と不定期の連絡紙「通信」を発行する。
 2. その他、会で必要として認められた事業を行う。
4. 役 員 会長1名、副会長1名、会計1名、会計監査1名を置く。
5. 会 計 会の運営は会費、寄付金、会誌の売却、その他の収入で運営する。
会計年度は毎年1月1日から12月31日とする。
会費は年3,000円とする。(但し2年以上未納の場合は自然退会とする)
6. その他 会は年1回の総会を開き、会の主要事項は総会の総意で決める。
7. 事務所 事務所は下記に置く

〒444-3511 岡崎市舞木町狐山6-4 大平仁夫方 (0564-48-4368)

三河昆虫研究会 (郵便振替口座：00830-9-14465)

=投稿規定=

1. 原稿は1行22字2段組とし、プリンターで作成し、フロッピーをそおえる。短報などは手書きでも可能。図は当分の間白黒写真。自費負担の場合はカラー印刷もできる。
2. 原稿は印刷頁4頁以内で作成し、これを越えた分は個人負担とする (頁あたり6,000円の予定)、別刷代はすべて個人負担。

○この規約は2008年2月24日の総会で承認されたものです。会長は大平仁夫さん、副会長は山崎隆弘さん、会計監査は浅岡孝知さん。そのご、会長依頼で編集委員に山崎隆弘さんと小鹿亨さんが担当されます。

「編集後記」

郵政民営化に伴い、口座の査定が厳しくなりましたので、総会で承認された会の規約を掲載しました。また、会に併設の「三河野生動物研究会」は解消、「西三河野生生物研究会」を(〒446-0001)

安城市里町雁戸塚10-3 小鹿登美方に置き、三河地方の野生生物の調査研究の拠点となりました。これからも、会に参加してそれぞれ得意分野で活動を支援して下さるようお願いいたします。

(大平記)

☆三河昆虫研究会への入会案内☆

三河昆虫研究会は、会報「三河の昆虫」を年1回と連絡紙の「三河の昆虫(通信)」を複数回発行し、地域の昆虫相の解明につとめています。入会希望のかたは、年会費3,000円を添えて申し込みください。